

回覧

鐘楼

伊勢崎市立北小学校学校運営協議会だより 第8号(本年度第1号)

令和元年8月吉日：伊勢崎市立北小学校学校運営協議会

北小学校ホームページアドレス：<http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/>

☆令和元年度の第1回学校運営協議会が行われました

新しい年号がスタートしました。地域の皆様、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年度も、北小学校学校運営協議会便りを発行し、活動の様子をお知らせしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



さて、本年度のスタートとなる第1回の学校運営協議会を、5月23日(木)、赤石楽舎会議室にて行いました。教育委員会からの委嘱状交付や役員の選出の他、北小学校の学校経営に関する協議や本会の今年度の取り組みなどについて話し合いがもたれました。また、本年度も北第二小学校の小池千秋校長にオブザーバーに加わっていただくことになりました。

本年度の北小学校学校運営協議会の活動としては、以下のような取り組みを考えています。

○平成28年度に作成し公共施設等に掲示をさせていただいている「あいさつポスター」を通して、本年度も「あいさつのできる子の育成」を推進していきたいと考えています。

○「いじめ防止」の啓発として作成している「いじめ防止カレンダー」を、本年度も作成する予定です。令和2年の4月に年度カレンダーとして北地区全戸、北小学校児童全家庭、北第二小学校児童全家庭に配布できるよう準備を進めていきます。

○昨今の児童の命に関わる事案がニュース等で多数取り上げられていることを受け、「児童の安全安心」をキーワードに協議会としてどんなことができるかを検討していこうと考えています。

今後も、この学校運営協議会通信「鐘楼」を通して取り組み等について発信していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

～ 本年度の北小学校運営協議会委員です。どうぞ、よろしくお願いいたします。～

会長 芝崎和子(曲輪町3区区長)

副会長 浅野正史(北小PTA会長)

委員 相澤千絵美(北小PTA副会長)、新井恵子(放課後こども教室コーディネーター)

新井悦子(北地区子ども育成会副会長)、正田清江(北公民館長)

高橋 望(群馬大学大学院准教授)、平岡さつき(共愛学園前橋国際大学教授)

本堂晴生(NPO法人Gコミュニティ代表理事)、丸岡良三(北地区民生児童委員)

山田千広(放課後児童クラブ「こどもサポート」運営スタッフ)、西田 修(北小学校校長)

オブザーバー 小池千秋(北第二小学校校長)

★本年度も委員の児童やご家庭への 応援メッセージを掲載させていただきたい と思います。 <順不同>

正田 清江 委員

『子どもたちに伝えたい私が大切にしていること』

私が大切にしているものは、郷土を大切に思い、郷土の知識を深めることです。

私たちの住む伊勢崎は、誇れるものがあります。江戸時代には、郷学(今でいう学校)が栄え、義務教育ではない時代にも関わらず学習意欲の高い地域でした。(郷学数日本一!)養蚕の盛んな頃は、女性たちも男性に負けないくらいよく働き、かかあ天下の言葉どおり女性がいきいきと輝く存在であったことは今でも引き継がれています。

街並みはかわっても、上州の気質、心意気は引き継がれてほしいと願っています。





高橋 望 委員 『挑戦する勇氣』

私自身が小学生だった頃、引込み思案だったこともあり、いつも友達の影に隠れていました。「自分がやらなくても、誰かがやってくれる」、「自分がやるよりも、〇〇ちゃんの方がうまくできる」。そんなことを思っていました。



ある時、学級委員になることになってしまいました。自分に本当に務まるだろうか。とても焦ったことを覚えています。でも…。学級委員という「挑戦」が、これまで関わることのなかった先生や友達との出会いや触れ合いを連れてきてくれ、新しい自分になれた気がしました。あの時ちょっとだけ出した「勇氣」が、今の自分につながっていると実感します。

本を読んだり、大人の話の聞いたりすることもとても大切だと思います。しかし、自分自身が実際に経験したことは、何事にもかえられない貴重な財産になるはず。見るもの、聞くもの、触れるもの全てが、身になっていくはず。たとえ失敗したとしても、そこで得られた経験を別の機会にいかせばいい。やらないで後悔するより、やって後悔する方がずっといいと思います。北小の子どもたちには、何事にも「挑戦する勇氣」持って、毎日の学校生活を楽しく過ごしてもらえたらと思っています。



丸岡 良三 委員 『簡単なことを大切に』

教育環境の整った中で、目を輝かせながら真剣に学習や活動に取り組んでいる北小の子どもたちに一言。

日々の学校生活の中には、様々な学習や活動があります。その中で、「簡単なこと」「小さいこと」が疎かになってしまうことはないでしょうか。基礎・基本がしっかり学習できていないのに応用問題を解くことは難しいと思います。簡単なことが出来ていないのに大きなことに挑戦することは大変でしょう。学校生活の中には、清掃活動や学級の仕事、宿題、約束や決まりを守る、委員会の活動など、様々な活動や約束があります。一つ一つの取り組みをしっかりと積み重ねると自分を成長させるのに必要な土台となります。「簡単なこと」「小さなこと」にも全力で取り組み、「あたりまえのこと」や「簡単なこと」がしっかりできる人になって欲しいと思います。



山田 千広 委員 『子どもたちの未来に期待すること』

一人一人が、生き生きと、安心して暮らせる社会になってほしいと思っています。すべての人が幸せに生きられる社会を目指してほしいと思います。

本校は、コミュニティ・スクールです。学校と地域の人たちや保護者・学識経験者が力を合わせて学校の運営に取り組んでいます。それは、さまざまな人たちが、子どもたちとかかわることでもあると思います。

子どもたちの世界は、ほぼ同世代との関係でできています。しかし、学校を卒業したあとは、さまざまな世代の人と生きることになります。社会に出て、働き始めたとき同い年の人と一緒になることはまれです。また、これからは、多様な人々と一緒に生きていくことになります。コミュニティ・スクールでいう「協働」は、学校を離れたあとも、地域と家庭・地域と会社などとなって続いていってほしいと思っています。

地域が学校にかかわり、学校が地域にかかわることで、両方がよりよくなり、暮らしやすい・安心して暮らせる社会になって欲しいと思っています。



新井 悦子 委員 『笑顔が未来をつくる』

「おはようございます」「こんにちは」と子どもたちの明るい元気なあいさつは、まわりの人を笑顔にし、幸せな気持ちにしてくれます。多勢の人が癒やされます。その笑顔は、自分も相手も心と体をも丈夫にします。食事を美味しく食べられ、結果、健康な体づくりにつながります。

大人を見て、子どもは育ちます。子どものお手本になっているんだと、私たち大人はしっかり自覚しなければならないでしょう。

子どもたちの明るい未来を作るためにも、私たち大人の笑顔が必要であると感じます。子どもの心を豊かにし、夢や目標をつくる場所が学校と家庭です。ここが大好きと言えるような場所をつくり、子どもたちの可能性を見出し、様々な選択肢を広げてあげるのが私たち大人の役目なのではないでしょうか。

